

1. 事務局からのお知らせ

(1) 事務局の移転について

本学会の事務局は、1994年以来、東京都立大学に置かれていましたが、今年度から京都産業大学に移ることになりました。三年間にわたって、事務局の仕事をしてくださった東京都立大学の石野好一編集委員と、ご協力いただいた学生のみなさん、どうもご苦労さまでした。京都産業大学では、宮下明信・荒井文雄の二人の編集委員が事務を担当します。新事務局の住所と電話番号は以下の通りです。

〒603 京都市北区上賀茂本山
京都産業大学外国語教育研究センター事務室内
日本フランス語学会事務局

Fax : 075-705-1448

Tel : 075-705-1770 (宮下) 075-705-1826 (荒井)

(電話は宮下・荒井の研究室直通です。不在の時間も多いため、ファックスの方が確実と思われま)

(2) 入会について

事務局では、本学会への入会案内を用意しております。みなさんのまわりにフランス語学に興味を持ち、学会への入会を希望している方がおられましたら、上記住所の事務局まで案内を請求するようにアドバイスをお願いします。ご連絡がありましたら、折り返し案内を送付します。

(3) 会費の納入について

本年度の会費をまだ納入しておられない方は、ご送金くださいますようお願いいたします。個人会費の送金は郵便振替で、振り込みをお願いしています(郵便振替口座番号: 00160-6-56308)。

会費未納の方には学会誌『フランス語学研究』とともに、請求書をお送りしますが、2年以上会費を滞納された方には学会誌はお送りしていません。また、4年間会費納入のない方は、退会扱いとなりますのでご注意ください。

なお、『フランス語学研究』のバックナンバー購入ご希望の方は、フランス図書が取扱業者になっておりますので、そちらにお問い合わせ下さい。

(4) 住所変更などについて

住所(連絡先)・所属機関等の変更がある場合は、ご面倒でもなるべく早く、事務局にお知らせください。

会費送金のついでに振替用紙などに新住所を書く場合は、変更がある旨を通信欄に書き添えて下さると助かります。

(5) 例会案内通知について

例会通知は、はがきを送って下さった方にお送りしています。通知をご希望の方は、官製はがきにご自分の住所・氏名を表書きしたものを、10枚ほど上記事務局までお送り下さい。なお、ご自分の宛名には「○○○○行」とせず、「○○○○様」として下さい。発送の手間を軽減するためです。よろしくお

願います。

「ハガキ切れ」の印を押された通知を受け取った場合も、同様に通知用葉書をお送りください。

(6) 編集委員の交代について

本年度は、次のように編集委員の交替がありました。

【辞任】古石 篤子（慶応義塾大学）

石野 好一（東京都立大学）

なお今年度は新任の編集委員はありません。

(7) 論文寄贈その他のお願い

フランス語学に関するもので、最近（過去3～4年）発表された論文がございましたら、抜き刷りを事務局までお送り下さい。『フランス語学研究』の「寄贈論文」欄にタイトルを掲載します。また、同じく過去3～4年間に発表された修士論文についても、執筆者・タイトル・大学名（提出先）・年度をお知らせ下さい。ご本人はもちろん、関係者の方からの連絡でも結構です。ご協力をお願いします。

（荒井 文雄）

2. 例会案内

本学会の例会は、長らく上智大学で開かれていましたが、今年4月より青山学院大学に会場が変更になりました。長い間本学会のために会場を提供して下さった上智大学の関係者の方々にお礼を申し上げます。

会員の方々は会場変更にご注意ください。新しい会場は、青山学院大学5号館3階530番教室です。11月のみ関西開催で、他の例会は今後ここで行われます。

本年度の例会の予定は以下のとおりです（変更の可能性があり、タイトルも仮題です）。

7月5日（土）

竹本 雅嗣（山口大学）「所有者昇格の対格表現と与格表現」

藤田 康子（関西学院大学非常勤）「Il y a と avoir」

9月27日（土）

横井 雅明（岩手大学）「未定」

阪上るり子（関西学院大学非常勤）「未定」

10月18日（土）

小倉 博行（早稲田大学非常勤）「未定」

川島浩一郎（東京外国語大学・院）「pas de X」

11月

金子 真（京都大学・院）「疑似関係節について」

他一名未定

12月6日（土）

石野 好一（東京都立大学）「並置の等位接続・従位接続」

他一名未定

事務局に葉書を送っていただいた方には、例会案内の通知を発送していますが、それ以外に『月刊 言語』（大修館）、『ふらんす』（白水社）、メーリングリスト frenchling にも掲載されますので、ご参照ください。またこれら雑誌案内、葉書案内に必要ですので、例会発表者には発表の3ヶ月くらい前にタイトル（仮題でも可）をお問い合わせいたします。ハンドアウトは通常の例会では50部程度、文学会と同時期の例会、および12月の例会では60部程度準備し

てください。

1998年度の例会発表者を募集しています。希望者はお近くの編集委員、または事務局までお申し出ください。

3. 運営・企画担当委員より

1996年度より関東の運営・企画担当は阿部・鳥居が、また関西は大木・三藤が担当しております。このメンバーで例会、海外の研究者を招いての特別発表、シンポジウム、パネルディスカッションなどをオーガナイズします。会員の皆様のご支援をお願いします。

例会については上記例会案内を見ていただくことにして、ここではその他の活動を紹介します。昨年度は特別発表として Daniel LEBAUD氏 (Franche-Comte大学) が講演をしてくださいました。今年度はすでに Henri BESSE氏 (ENS) の講演が日本フランス語教育学会主催、青山学院大学・日本フランス語学会共催で開催されました。さらに6月21日(土)には Marc WILMET氏 (Bruxelles自由大学) の講演が予定されています。

昨年5月末のシンポジウム(早稲田大学で開催)では「フランス語の語法と翻訳の諸問題」(関東企画)というテーマで、プロの翻訳家の方をお招きして、翻訳と語学的な問題について議論を行ないました。フランス文学会と同時期の開催で、会員以外の一般の方も多数参加をいただき、フランス語学会の活動を知ってもらうよい機会ともなりました。今年度は「半過去の諸問題」というテーマでやはりシンポジウム(関西企画)が企画されています。これは半過去時制を文学テキスト的観点、教育的観点、そして語学的観点より検討するものです。

来年度もシンポジウム、また通常の例会に代えてパネルディスカッションを開催することもできます。アイデアをお持ちの方はご連絡ください。

最近日本の大学院で勉強中の方も、フランスなど海外留学中の方も含めて、熱意ある若い学生が目立ってきて学会の将来が楽しみです。例会発表にも昨年度も今年度も学生の方から多数希望が寄せられました。

例会発表、特別発表、その他学会運営の方法についてご意見や提言のある方は、お近くの編集委員までお申し出ください(編集委員の構成は『フランス語学研究』巻末を参照のこと)。

(阿部 宏)

4. 編集責任者だより

『フランス語学研究』(編集委員の間ではBELF(ベルフ)とよんでいます)31号ができあがりました。ベルフは研究誌であるとともに、会員のみなさんのための情報誌であることも心がけて作成しています。編集者としては二つのことを念頭において仕事をします。その一つは、研究誌である以上、学術論文としての質を保つこと、もう一つは、情報源として価値のある、有用な情報を幅広く収集することです。最終的には、フランス語研究の多様性がバランスよく反映できるようにしています。論文・研究ノート・語法ノートは、編集委員会の中に査読委員会を組織して、掲載の可・不可を決定します。その他は、研究例会での意見交換やシンポジウム、講演会などの機会に出されたアイデアを生かしながら、情報を多様化させていくわけです。しかしまだまだ進歩改良の余地はあると思います。論文も対照研究、歴史的研究、記号学的研究、社会言語学的研究などフランス語の諸側面に光をあてた研究が拡がって欲しいと思いますし、世代的にも若い研究、老練な研究などいろいろな流儀があってもよいと思います。次号も会員諸氏の積極的な投稿を期待いたします。

(青木 三郎)

フランス語学が研究できる大学（院）

このコーナーでは、国内の大学・大学院で、フランス語学が研究できるところを順次紹介しています。今回は関西学院大学と大阪外国語大学です。

関西学院大学文学部、大学院文学研究科

関西学院大学文学部フランス文学科では3年次に「フランス文学演習」と「フランス語学演習」のどちらかを履修するシステムで、約半数の学生が後者を選んでフランス語学のさまざまな科目を履修し、この分野で卒業論文を書いています。

大学院文学研究科でも学部と同様にフランス文学またはフランス語学を専攻することができます。フランス語学専攻の学生は「フランス語学研究演習」その他を履修することになります。博士課程前期課程・後期課程にはそれぞれ毎年2、3人のフランス語学専攻の入学者があります。

学部と大学院のフランス語学の授業は、伊藤了子、Olivier Birmann、曾我祐典の三人の専任教員と多くの非常勤教員が担当しています。現代語はもちろん、古フランス語やアングロ・ノルマンの研究、日仏語対照研究、フランス語教育学研究など、自由で開放的な雰囲気の中で自分の興味に応じた研究をすることができると思います。これまではいわゆる「課程博士」を作ることには熱心ではなかったのが優秀な学生はフランスの大学で博士論文を準備するのがふつうでしたが、これからは後期課程で博士論文を書いて学位を取得することを奨励する空気が強くなってきています。

入学試験は、前期課程が9月で後期課程が3月です。過去の試験問題は文学部事務室で入手することができます。フランス語学専攻についての問い合わせはフランス文学科研究室までどうぞ。
(曾我 祐典)

大阪外国語大学大学院

大阪外国語大学大学院は、今まで修士課程しかありませんでしたが、今年から博士課程が開設されて、その仕組が大きくかわりました。大学院は言語社会研究科という名称になり、前期課程（従来の修士課程）ではそれが地域言語専攻と国際言語専攻に別れますが、後期課程ではその区別がなくなって、言語社会専攻ひとつになります。

また、従来の専攻語ごとの区分もなくなって、今は、世界の各地域ごとにいくつかの言語をまとめた、地域単位の区分けに変わりました。フランス語関連の勉強をしたい学生は、その中の地域言語専攻の南欧コースに登録することになります。南欧コースは従来のイタリア語、スペイン語、フランス語、ポルトガル語が統合されたものです。フランス語言語学は、安生恭子と木内良行が主に統語論、意味論関係の授業を担当していますが、南欧コースでは、もちろんフランス語に限らず、ロマンス語系の色々な文化や言語についての授業を受講することができます。また、ヨーロッパ、アメリカの言語だけではなく、アジアの様々な言語の授業も開講されており、フランス語とは系統の違う言語に興味がある方はそちらも合わせて受講することも可能です。入学試験は秋と春の年2回行われています（試験の形式や期日等については入学試験係 TEL 0727-30-506）までお問い合わせ下さい。

(木内 良行)

研究会案内

学会の例会以外に開かれている研究会のご案内です。

フランス言語学を一緒に勉強する会

7月12日（土） 3時～6時

慶応義塾大学（三田）旧図書館小会議室

川島浩一郎（東京外大DC）「pas de N をめぐって」

後期の発表者は未定です。ご希望の方はなるべく早く世話人までご連絡下さい。

世話人 川口 順二、藤田 知子

関西フランス語学研究会

20年の伝統を誇る当研究会は、いまや日本フランス語学界の中堅を担う先生方の読書会から始まり、その後、現在の発表会形式に移行しました。現在では学生の方の参加者も多く、きちんと纏まった発表からまだアイデア段階の発表まで、さまざまな発表を気軽に発表できる場として、夏休みを除きほぼ毎月、おおむね第三土曜日に大阪日仏センターで開催されています。ここ一年間の発表には、つぎのようなものがありました。

1996/4/27 谷口千賀子（関西学院大学非常勤）

「faconとmaniereについて」

1996/6/23 後藤 寛（京都大学院）

「ジェスチャーと発話の焦点構造の関連性について」

1996/7/15 久後貴行（大阪市立大学院）

「RamusとPort-Royalの動詞論について」

1996/9/21 武本雅嗣（関西大学非常勤）

「二次的叙述について」

1996/10/19 岩田早苗（大阪大学院）

「フランス語の"Quand+imparfait"をめぐって」

1996/12/1 上田誠人（大阪外国語大学院）

「前置詞 pour の解釈と不定法表現」

1997/12/26 藤田康子（関西学院大学非常勤）

「Il y a と avoir」

1997/1/25 野崎直人（関西学院大学院）

「副詞 pourtant の歴史的な分析」

1997/3/29 谷井安代（神戸女学院大学生）

「英語とフランス語の付加形容詞の機能と位置」

1997/4/19 伊藤了子（関西学院大学）

「vraiment について」

またこの会は、研究発表ばかりではなく、さまざまな情報交換の場としても機能しています。例会案内は必ず frenchling で流れますが、葉書での案内をご希望の方は、福島祥行（大阪市立大学文学部 fukushimアットマーク lit.osaka-cu.ac.jp）までご連絡下さい。

（福島 祥行）

海外大学言語学事情

第3号からフランスの大学の言語学事情を紹介しています。今年もフランスに留学中の若手研究者の方たちから、ご自分の勉強されている大学の事情が届いています。今回は、プロヴァンス大学とリール大学です。

プロヴァンス大学

プロヴァンス大学文学部はエクス-マルセイユ第一大学 (Aix-Marseille1) の大学の中にあり、主に文学、心理学、言語学等の研究分野を担っています。

言語学の分野は、統語論、意味論、音声学、談話文法論、コミュニケーション論等の研究が行われています。premier cycle から maitrise まで様々な授業のカリキュラムが生まれ、質、量とも非常に充実した内容となっています。今回は私が授業に出ているものを中心にしながらその中の maitrise の授業を幾つか紹介したいと思います。

一般言語学科の maitrise の場合、必須科目として挙げられているのは次の3種類の科目です。

1. Problemes d'analyse des langues
2. Analyse des productions langagieres
3. Production et perception de la parole

まず1番目の「言語分析に関する諸問題」という授業では、主に言語分析の maitrise に関する問題を文法と音声学の側面から読み解くことを主眼としています。2番目の「言語産出分析」は私も出席している授業で、談話や会話分析に主眼をおいたカリキュラムとなっています。談話分析に関しては、談話のタイポロジーやテキスト文法の話に始まり、theme et propos、progression thematique といった内容から談話内の repetitions, anaphores, connecteurs, cohesion textuelle、さらに談話の連続性に関する話題を順次扱っています。会話分析の方では発話のやりとりと呼吸の関係やアイロニー、ターンテークに関する問題を扱います。3番目の「発話産出、及びその知覚」の授業では、発話の理解や産出の問題を言語心理学的な側面から読み解くことをメインテーマにしています。授業は幾つかの理論を紹介するという形で進められ、また発話のメカニズムをより多面的に捉えるため、聴覚器官の紹介、すなわち外耳組織の説明も行われます。以上が必須科目の概要ですが、それぞれ異なった角度から言語の諸問題を分析します。

次に選択科目ですが、こちらも多様なテーマが揃っています。すべてを記すことは出来ませんが例えば第二外国語の言語習得、ノンバーバルランゲージ、言語病理学（例えば失語症と言語の関係など）等があります。また授業ではありませんが、定期的に行われている研究活動としては対話式コミュニケーションの分析会、さらには発話とジェスチャーの関係についての研究会があります。前者は対話のコーパスの収集、及びその分析を中心としながら発話に関わる様々な要素、例えばイントネーションやジェスチャーが果たす役割を考慮しつつ、実際の対話がどのような形で進められていくのかを読み取っていくことを主眼としています。後者はジェスチャーを中心としてバーバルな要素とノンバーバルな要素がどのように作用しあっているのかをリサーチしていきます。こうした学際的な研究活動もプロヴァンス大学の特徴のひとつかもしれません。

(後藤 寛 京都大学大学院)

リール第三大学

Lille III 大学のDEA (Theories et analyses linguistiques) は、1997~98年度より、Artois 大学、Littoral 大学に加えて、Picardie Jules Verne大学、Valenciennes et du Hainaut-Cambreris 大学とも提携した課程となる予定です。この課程には次の三コースがあります。

- 1) Linguistique fondamentale
- 2) Francais langue etrangere et didactique des langues
- 3) Lexicographie.

DEA 取得には、必須授業三つの単位（各18時間）に加えて、セミナー二つ（各37,5~50時間）の単位、論文提出が必要です。1997~98年度に予定されている必須授業は次のとおりです。

- Theories syntaxiques (担当: A. Rousseau か Ph. Miller か M. Van Peteghem)
- Theories semantiques (M.-N. Gary-Prieur か N. Flaux)
- Theories de l'enonciation (H. Portine か D. Mainguenu)
- Didactique du francais langue etrangere et acquisition des langues (H. Portine)
- De la linguistique a la lexicographie (D. & P. Corbin, M. Van Peteghem)

開講予定セミナーは次のようなものがあります。

- Semantique des noms (M.-N. Gary-Prieur et D. Van de Velde)
- Morphologie derivationnelle (D. Corbin)
- Semantique du temps et de l'espace (A.-M. Berthonneau)
- Linguistique et semiotique textuelles : la temporalite du recit (H. Portine et Th. Charnay)
- Lexicographie: La representation du sens dans les dictionnaires、 la structure des dictionnaires mono-lingues (D. & P. Corbin)
- La classification des noms: syntaxe et semantique (N. Flaux)
- La metaphore (N. Flaux et W. De Mulder)
- La grammaire fonctionnelle de S. Dik (C. Vetters)
- Enonciation et lexique: analyse de textes non-litteraires (D. Mainguenu et A. Lehmann)
- La semantique lexicale (A. Carlier)

この他、英語学、独語学のセミナーを選ぶことも可能です。

教員及び博士課程者によって構成される研究グループは次の五つがあり、それぞれが研究会紀要発行などの活動を行っています。

- 1) U.R.A. 382 du C.N.R.S. "SILEX"(Syntaxe, Interpretation, Lexique : Lille III 大学),
- 2) SELOEN (Lille III 大学),
- 3) Centre de Recherches en Linguistique (Artois大学)
- 4) Centre d'Etudes Linguistiques (Littoral 大学)
- 5) CAMELIA (Centre d'Analyse du Message Artistique et Litteraire: Valenciennes et du Hainaut-Cambrais 大学)

Lille III 大学は、フランスで唯一 DEL (Diplome Europeen de Lexicographie)を取得できる大学であるためLexicographie が盛んです。また、A.-M. Berthonneau, D. Van de Velde, M.-N. Gary-Prieur など Semantiqueを専門とする教授が多いにもかかわらず、Morphologie derivationnelle を築いた D. Corbin の本拠地であるためか、Morphologieを専攻する学生も多くなっています。実際、1993-96年に提出された博士論文は四つとも Morphologie に関するものでした。

(武内 裕紀 関西学院大学大学院)

編集後記

今年も日本フランス語学会の『ニューズレター』第5号を会員の皆様に無事お届けすることができました。

このニューズレターは編集委員会と会員の皆様とをつなぐ橋の役割を果たすものです。内容に関してご意見がありましたら、最寄りの編集委員までお寄せください。

今年事務局の移転と例会会場の変更という大きな変化がありました。今後とも皆様のご協力を得て、このニューズレターが充実した学会活動の一助となるよう努力したいと存じます。

この号の編集は木内良行（大阪外国語大学）が、製版と印刷は東郷雄二（京都大学）が担当しました。